

社会資本整備における自然再生

日本工営 株式会社／自然再生士 森岡 千恵

はじめに

皆さんは、「建設コンサルタント」という職業をご存じでしょうか。一般の方には馴染みの薄い職業だと思いますが、実はこの職業、皆さんの生活にとっても関わりがあります。皆さんが日常生活で何気なく、または気付かずに活用している道路・橋・ダム・堤防・防波堤・上下水道などの施設は「社会資本」と呼ばれ、国や県・市町村などの役所が主体となって整備・管理をしています。社会資本の整備のうち、工事は建設会社が行いますが、計画・調査・設計・維持管理などについて、国や県・市町村の技術的な支援をしているのが建設コンサルタントです。

技術支援の内容は、土木一般から、地質・防災、環境保全といったさまざまな分野にわたります。私は、環境保全の専門家として、「社会資本整備」で影響を受ける自然環境（緑地や貴重な動植物の生育・生息域など）の保全に関わる計画・設計を主に行っています。

自然環境の再生とは？

さて、この「自然環境」の「再生」、とても魅力的な言葉ですが、同時にとても難しい取組でもあるのです。私たちが再生しようとしている「自然」は、実は、純粋な手つかずの「自然」ではなく、先人たちが暮らしの中で作り上げてきた「里地里山」、すなわち半人工の自然であることが多いのです。これらの里地里山は、古の人々の伝統的な暮らしや農業と密接に結びついて維持されてきたため、ライフスタイルや土地利用の在り方が変わってしまった現代生活の中で、「里地里山」の姿を再生することは、簡単なことではありません。

また、各地の里山は同じような姿をしていても、その土地の気候風土や暮らしぶりにより、里山を維持する作業の要点は少しずつ異なっているため、各地の里山をつくる共通の教科書のようなものはありません。

自然再生士資格認定講習を通じて得られたもの

私が自然再生士の資格認定講習を受講したのも、社会資本整備を通じて取り組んでいた里山（自然）再生の難しさを実感し、「少しでも、何かヒントが欲しい」との思いからでした。この講習で得られた成果は、今でも私が自然再生の取組を行う際のベースとなっています。

資格認定講習では、自然再生に関する豊富な経験を有する講師陣が、これまでの現場経験を通じて蓄積された事例を惜しみなく披露くださいます。これらの事例は、別の場所でそのまま実践することはできませんが、提示されている多数の事例を通じて「目標の立て方・考え方」「再生作業のポイント」「モニタリング調査の方法と反映の仕方」等、自然再生を実施するうえでの必要な基本姿勢や取組のポイント等の勘所が分かってきます。また、講習会で配られる豊富な事例集も役立ちました。これらは、自分たちが現場で実際に自然再生に取り組む時の「羅針盤」としても有効です。

特に近年の社会資本整備では、自然再生を行う場合に、市民の皆さんと協働で実施することが多く、事前に再生する自然の姿を提示することや、再生の経過と今後の見通しなどを分かりやすく説明することが求められます。これには、資格認定講習で得た知見・資料、そして人的ネットワークが役立ち、市民の皆さんとのコミュニケーションを円滑に進めることにもつながっています。

自然再生士として

自然再生士として、里地里山の再生の取組などのお手伝いをしていますが、自然再生には多くの人々による協力（作業）、技術と知見、さらに、長い時間がかかります。そして自然再生の現場は、新たな驚きや発見・疑問に満ちています。これらの新たな発見を、知見や技術として皆さんと共有することで、よりよい自然再生の実現に向け、今後も尽力してきたいと考えています。